

鳥取西高近畿同窓会報

第 12 号

2020 年 4 月 1 日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会
 発行責任者：窪田邦倫（西高 45 年）
 編集責任者：山内紀嗣（西高 43 年）



新たな出会いを

目指して



私の好きな言葉に「一期一会」という言葉があります。広辞苑を引くと「生涯にただ一度まみえること」とありました。人生の中では、数々の

出会いがあります。その一方で、これほど多くの人がいるのに一度も出会うことのない人もいます。私もこれまで、仕事を含めてたくさんの方とお会いしました。でも、まだお会いできていない方もいます。人に出会えること、ご縁をいただくこと。これは素敵なことです。なぜなら、たくさんのお出合いは、自分がないもの、自分が知らないことを教えてくれるからです。

その中で、私の心に残る出会いとお話があります。私達を幸せにくれる樹の代表は何といっても桜でしょう。昨年、日本中に感動の輪を広げたラグビーワールドカップ日本代表チームのエンブレムも桜でした。数年前の春、自宅近くの夙川（兵庫県西宮市）沿いを歩いていると、盲導犬を連れた女性に出会いました。遊歩道の桜並木は開花間近。何気ない会話のやり取りに心が熱くなりました。女性は「さくら」についてこう話しかけてきたのです。

「私は桜の花が大好きなんです。目が不自由なのに桜の花が見えるの？と不思議に思われるでしょうが、私には分かるんです。まず、土の臭いで春を感じるんです。『春が近づいたんだ。そう思うとワクワクできます』。やがて日が経つと、今度は土手の広場

鳥取西高近畿同窓会

会長 窪田 邦倫

（西高四五年）



から花見客の声が聞こえてきます。『もう桜は満開なんだ。桜の下では楽しい宴が繰り広げられているんだな』と、桜花爛漫の様子が分かるんです。そして、いつの日か遊歩道を歩いていると、手のひらに桜の花びらを感じるようになるんです。『もう桜は散り始めたのかな。桜の季節も終わりだな』と思うと、やはり寂しくなるんです。『この女性は五感で桜の季節を楽しんでいる。健康者の私達よりも、もっともっと季節を感じ取っているのかもしれない』。そう思いました。やはり、桜は分け隔てなく人々を幸せにしてくれる樹の代表なんですね。

話を続けます。童謡・唱歌を聴くと、何とも言い表せない気持ちになります。童謡や唱歌のメロディーは日本人の心に好きも嫌いもなく、内なる自然のごとく存在しているのでしょう。

とりわけ「故郷」。鳥取県出身の岡野貞一の作曲ですが、その歌詞にふれると昔あったことを懐かしく思い出す情にかられ、子供の頃からの人生を追体験してしまいます。

最近の若い人たちは、歳を重ねた人たちにとってなかなかついていけないリズムの曲を聴いていることが多いですね。でも、そんな若い人たちが子供たちの心



にも日本的なメロディは根付いています。ニューヨークでダンス学校に通

っていた女子学生は、夜中一人でアパートに帰ってきた時、ふと「故郷」を口ずさみました。すると、歌っているうちに涙ぐんでしまったといいます。懐かしい歌には人間を鼓舞する力があると気づかされました。

昨年六月、私は鳥取西高近畿同窓会の会長の重責を担わせていただくことになりました。同窓会を通じてたくさんのご縁を賜りましたことに感謝をし、職責を全うしてまいります。目指すのは「桜」のように多くの方に幸せを感じ取ってもらえる同窓会、「故郷」の歌詞のように母校や思い出を大切に、たくさん卒業生が集う同窓会です。これまでの伝統に令和の新たな歴史を刻み、さらなる発展に努めてまいりますので、引き続き、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

第57回 鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日：令和2年6月28日（日）11:00～15:30

受付は10:30より

会 場：大阪キャッスルホテル6階

大阪市中央区天満橋京町1-1

Tel 06-6942-2401

①総会：11:00 ②懇親会：12:00～15:30

会 費：¥7,000 〈会場にご持参下さい〉

（29歳以下の会員は5,000円）

恒例の長寿（満80歳）のお祝いをします

（昭和34年卒業の方が対象です）

総会報告

第五十六回近畿同窓会は遠路母校より山本校長、同窓会より小谷会長(西高四七年)、美田事務局長(同五一年)そして県の関係機関から鳥取県中原関西本部長(同五九年)をお迎えし、令和元年六月三十日(日)大阪キャッスルホテルにて総勢六十二名参加のもと賑やかに開催しました。特に今回は米澤道隆会長(同三九年)が体調不良とのことで同窓会を欠席されました。

まず総会の部では、米澤会長のメッセージが事務局より紹介されG20大阪サミッ



トの影響が残る中での同窓会開催にもかかわらず多くの方々に出席いただいたことへのお礼と感謝があり、また、新しい令和の時代を迎え、近畿同窓会の更なる発展を遂げていくためにも若い世代へと引き継いでいくことが急務となっているとして、自らの会長退任と新会長への交代の申し出がありました。

また各ご来賓の皆様からお祝いの言葉をいただきましたが、中でも山本校長から、各クラブの活動状況、並びに平成三十年度SGOの取り組み状況について資料をもとに詳しく説明がありました。

議事では、事務局より平成三十九年度決算報告と松岡監査(同四四年)から会計監査報告、続いて令和元年度予算案についての提案、

また、役員改選について米澤会長の退任、米澤会長から新会長への推薦理由の紹介があり、窪田新会長(四五年)、新幹事に田淵道幸さん(同五十年)、岩井順一さん(同五三年)の提案を行い満場一致で承認されました。

懇親会の部では窪田新会長による乾杯の音頭でスタート。今年も植村副会長(同三四年)、足立伸之助さん(同年)による箏曲演奏、また初参加された遠藤準二さん(同三三年)による民謡が披露され、大いに盛り上がりしました。

いつもながら名残が尽きない中、フィナ

ーレでは例年の如く、高女、西高の校歌を由谷ひろみさん(同五十年)によるピアノの生伴奏により高らかに歌い、再会を誓いつつ岩永建夫さん(同四二年)の中締めで無事閉会となりました。

事務局長 村江信幸(西高四三年)

寄稿

和歌山へ来て



小上 育代(西高四二年)

和歌山に嫁いで四十五年、温暖で果物が豊富にあり海はきれいで住みやすいところです。鳥取と違って冬でも青空があります。

私が嫁いだのは浄土宗のお寺です。和歌山、特に私の住んでいる町には各字にお寺があり、字の大きい字の寺以外はみんな公務員・教師などが本職でした。夫も教師をしていましたので法要の前の準備、掃除等姑と二人でやらなければいけませんでした。在家から来た私にとって何もかも分からないことばかりでした。それでも年を重ねていくうちに少しずつ慣れてきました。

昭和六十三年の一二月に先代住職がお浄土へ旅立ち、その葬儀もまた大変なことでした。組内寺院十名による通夜、告別式と何をどうすればよいのか分からないうちに終わりました。昨今の在家の方の葬儀は簡素化され、家族葬という形式が多くなりましたが、十名の寺方による葬儀はなかなかの葬儀でした。それが終われば今度は住職

の変更を宗務庁に申請し、代替わりの式、「晋山式」を行うことになり、これもまた一大イベントでした。お宿をしてくださる檀家さんのうちから、行列をしてお寺に入山する儀式です。今となれば楽しい思い出です。

平成四年秋に大雨が降り、本堂が雨漏りで畳をあげたり大騒動でした。その後、檀家の皆様が集まり、本堂、庫裡を建て替える事になりました。江戸時代の建物で台所は土間、昔のへっついさんもありました。計画されてから寄付を五年がかりで集め、我が家の畑に仮本堂、仮住居を建設して、平成九年の秋にようやく現在の本堂、庫裡が完成しました。この建設が今まで一番大変でしたが、お陰で新しく便利な庫裡に住まわせていただいています。これも檀家の皆様のおかげと感謝をしております。

長男は僧侶の資格を取らなかったのですが、次男が僧侶の資格がありますので建設の時に建てた仮住居を改築し、近くに住んでいるので有難いです。

お寺は嫁さんがなかなかきてくれないと言われますし、お寺は大変なこともあります。私はお寺もなかなか良かったと思っております。



登山とスキーと・・・

小谷 博子（西高四三年）

六五歳を過ぎて山の会に入りボチボチ歩いています。夏山ではこの三年で白馬、白山、槍ヶ岳、北八ヶ岳の山行に参加しました。高校時代の私には想像もできない姿です。ただ歩くだけなのですが。

何がそうさせたのか？ つらつら考えてみるに「人との出会い」がきっかけのように思います。スキーでは大学でクラスの仲間に誘われたこと、職場でも一緒に行く人がいたことでしょうか。そしてしばらくは年に数回滑るだけでたいして上達もしませんでした。ある時、夏に何もしないのは如何なものかと六甲山に登るようになりました。すると意図したわけでもないのにスキーが上手くなったような感覚がありました。そうなれば六甲山登山にも拍車がかかり、長い距離、難所を試すようになりました。そして退職後、近所の方から山の会への入会を誘われました。当初そんな力量はないからと尻込みしていたのですが、ゆるい例会もあるからと言われ入会、参加し



てみると、とにかく「人」がおもしろい。三十数年間同じ職種で通した人間としては、いろいろな職場出身の人たちの感覚がまるで違うのが興

味深く、例会に参加するのが楽しくなったのです。もちろん、山頂からの素晴らしい眺望も魅力のひとつです。

近畿近辺の例会で眺望の素晴らしかったのは、比良山系の縦走路から見た琵琶湖の絶景、そして五十数kmに及ぶ六甲山系、表六甲、裏六甲、西宮、宝塚近辺の山々は様々な顔を持っています。岩稜あり、深い森あり、池、滝、清流も・・・駅から登山口までが近く、都会の喧騒から静寂な森へとすぐに入れます。

スタートの遅かった私がいったいつまで登れるのかと思いますが、多くを望まないうでゆっくりお花畑や紅葉を訪ねたり、山頂で満点の星空を眺められるような山行をしたいと思っています。

会員の近況



（昨年の返信葉書通信欄より）
太中繁夫（西高二六年）八七歳となりすっかり足腰が弱り、外出もままならぬようになり、デイサービスでリハビリをがんばっています。

中嶋照夫（西高二六年）体調不良で倒れて実活動ができません。病院通いが主となりました。

西村永二（西高二七年）私どもの学年は来年に米寿を迎えます。何とか元気にこの歳を迎えたいと毎日三千歩を目標に健康維持に励んでいます。

平田マリ子（西高二七年）老人会でほぼどこに忙しくしております。

南 和子（西高二八年）八三歳になりました。まあまあ健康に過ごしております。看護婦、保健婦、ケアマネージャーを経て、今はカイロプラクターをしており学んでおります。年に一、二回帰鳥しています。

森西良俊（西高二八年）達者で週四日間の勤務を続けています。

村田雪江（西高二九年）先日、神戸北野坂を八千歩も歩いたのが響き、杖を買いしました。

佐々木清臣（西高三十年）五十〜七十歳は金剛登山、七十〜八十歳は四国八十八ヶ所、西国三十三ヶ所、神仏霊場百五十ヶ所、その他多数。八十歳以降はカラオケ千曲を目標につき頑張っています。学校薬剤師としてもまだ現役で頑張っています。

榊井教郎（西高三十年）週三回の透析を始めて三年目に入っています。今は施設に入っています。

松本七子（西高三一年）脚が悪くて歩きづらいです。中国語にハマってNHK講座を聞いています。

遠藤準二（西高三三年）四月に「過ぎた青春、これから青春」と題して神戸市長田区のピフレホールで民謡の会を開催しました。武庫川女子大学の二十歳の女の子と八十歳の私で足して百歳。素晴らしい仲間と元気にやっております。

坂口 勇（西高三三年）まだ貿易会社をやっています。昨年、山陰政経研究所の取材があり、『政経レポート』に掲載して頂きました。

古川 肇（西高三四年）やっと携帯電話のSMSが使えるようになりました。

宮崎宏紀（西高三四年）令和元年五月八日をもってNPO法人榎本地域活動協議会の理事（会計）を退任させて頂き少し楽になりました。

高野彰允（西高三六年）昨年、鳥取で三六年卒の同窓会に出席しました。出席者は家政科を含めて五十名余りで寂しいものでした。やはり後期高齢者になると出にくくなりますね。

市川渥史（西高三七年）地域老人会に入り、「老人だより」の発行をし、グラウンドゴルフ、ハイキング、バス旅行に参加しています。

井上 昌（西高三八年）健康マージャン教室に参加して元気に楽しくやっています。谷口睦子（西高三八年）七十歳で仕事を辞め、毎日のんびり過ごしています。

川上義美（西高四十年）趣味の合唱団、マレットゴルフ、地域ボランティアなどで忙しくしています。

花本清乃（西高四十年）障害の息子と二人暮らし。息子は足が悪くなり、リハビリやデイケアなどがあるので家を留守にできません。

西高と久松山
（東より）

久米健次（西高四二年）定年から六年が経ち、七〇歳になりました。今でも奈良女子大学の共同研究室で細々と研究を続け、近隣の大学で教えたりしています。土日は一反弱の畑で農作業をしています。

柴田和子（西高四二年）昨春秋、二カ月の入院生活。今年から新年号と共に再出発しています。

田口 徹（西高四二年）四月末に退職しました。近くににいる孫娘に毎週会うのが楽しみです。

竹内千恵子（西高四二年）六三歳まで開業医として働き、その後、趣味を楽しんで過ごしています。

橋本俊明（西高四二年）家庭五、仕事二、残りの三は遊んで楽しく暮らしています。

藤岡 均（西高四二年）今年、会社を退職しましたが、仕事の方は個人で細々と継続しています。

安宅寿昭（西高四三年）在宅酸素療法でなんとか過ごしています。

江阪詩朗（西高四三年）三月三十日の山開きで怪我をしました。復活しました。生かされている・・・と実感しました。

大川 環（西高四三年）孫の子守をしていて転んで足の指を骨折しました。が、それ以外は元気にやっています。絵もギターも一応、続けています。

土岐久美子（西高四三年）連れ合いの体調を伺いながら、励ましたり力ミツイたりしながら暮らしています。たまに一人で四国石槌山登山に向かいます。

茗荷恭介（西高四四年）相変わらず造形作

家として製作活動に追われています。昨年は鳥取での個展もありました。

丸山幸栄（西高四五年）葉は二種類飲んでいますが元気です。

山田陽子（西高四五年）年齢とともに体力の衰えを感じています。医師の診断を受け無理にならないよう過ごしております。

足立陽一（西高四七年）退職したら毎日をランニング、テニス、ゴルフ、ギター、囲碁、読書と計画的に過ごし、たまにのんびりと温泉で美味しい酒でも思っていたのが、思い通りにいかず、テレビの番人です。

岩田育徳（西高四七年）六五歳で完全リタイアして個人事業を始めました。

平尾 真・純子（西高四七年）夫婦ともまだ仕事をしています。鳥取へは墓参のみ。必ず西高の濠の風景を楽しんでいます。

西川愛人（西高四八年）今年で六五歳。動ける限り外に出ます。

澤 美和子（西高四九年）九二歳の実母（高女卒）の介護をしています。

前田洋一（西高五二年）まだシニア社員として働いています。もう少し頑張れるかな？

湯上邦夫（西高五三年）今年還暦。定年退職の最後の会社勤めをしています。

浦川ひかり（西高五五年）夫の留学のためニューヨークへ転居予定。二三年で関西へ戻ってくる予定です。



令和元年度年会費

ご協力者

（卒業年次順 敬称略）

太中繁夫、池澤春江、石田早千子、浜本英子、福田幸子、吉村芳野、岸本宏、近藤春樹、高野泰明、西原章恵、村山龍夫、武田彰正、伏野義夫、米田登美子、奥谷佑一郎、櫻井典彦、前屋敷洋子、森西良俊、倉光弘己、若槻昌子、澁谷須万子、南和子、村田雪枝、佐々木清臣、松永澄子、山根啓作、山本義憲、田口邦子、松本七子、加嶋 敬、田井 勇、遠藤準二、大倉幸典、草野榮子、坂口 勇、足立伸之助、有松敏樹、植村京子、岡崎正義、川上恵子、佐伯宏志、田中慶子、田中 昂、中原悠司、古川 肇、宮崎宏紀、米村博昌、石本武志、曾根崎崇臣、村尾禎彦、大塚元彦、清末直行、高野彰允、中山巖雄、東中文江、山下恵子、市川渥史、森下健男、森下美枝子、山田忠尚、井上 晶、谷口睦子、山本勝三、米澤道隆、加藤孝幸、川上義美、西尾彰子、頼政恵美子、石田正純、宇都宮栄子、後藤玲子、寺谷英一郎、徳田稔、森田暁、石塚敏子、岩永建夫、黄金弘子、久米健次、小上育代、田口 徹、竹内亨、竹内千恵子、安宅寿昭、井上なぎさ、江阪詩朗、大川環、片山寿恵、久保美知子、小谷繁昭、小谷博子、土岐久美子、得田ヨウコ、中村彰夫、船本俊博、本家公一、水谷陽子、村江信幸、安居真弓、山内紀嗣、山本雅章、庄田英一、寺田菜摘、中岸千恵、

中嶋順子、松岡孝道、吉村鉄太郎、窪田邦倫、佐藤和代、酒澤一嘉、山田陽子、佐々木忠司、谷尾吉郎、足立陽一、川合くみ子、坂岡隆司、坂口正義、佐藤収、中井由美子、村上悦洋、澤美和子、高瀬早苗、大菅倫子、佐々木映子、高田憲一、田淵道幸、由谷ひろみ、米田明弘、岩井順一、飼馬誠、松本麻希年、大山久美子、向井裕子、山根滋利、加藤敏明、篠村徹太郎、弓削由佳、勝見武、松岡浩司、富山哲明、雪本文子

（合計一四〇名）

有り難うございました。

お悔やみ

村江汎愛（一中五五回）

北 温恵（西高三五年）

（連絡頂いた方のみ）



（事務局連絡先）

〒631-0803

奈良市山陵町三六〇一

サンプラザ二〇八

村江信幸 宛

090-34695-7200

